



一人ひとりに応じた  
家庭学習の充実をめ  
ざし、生徒全員がいつ  
でもアクセスできるセ  
ルラーモデルを導入



学校法人聖望学園

聖望学園中学校高等学校

住所：埼玉県飯能市中山 292

URL：<http://www.seibou.ac.jp/>

キリスト教の理念に基づく教育を実践する聖望学園中学校高等学校（埼玉県飯能市）は、共学のミッション・スクールだ。キリスト教の精神に重きを置きながら、生徒一人ひとりの可能性を引き出し、自ら問題を解決する強い知恵と信念を持った人材育成をめざしている。



目的

- 学習ネットワーク環境を公平に提供したい
- セキュリティを万全にして保護者に安心してもらいたい
- 学校と保護者間のコミュニケーションを活性化したい



アプローチ

- 利用場所が限定されないセルラータブレットと安定して利用出来るNW環境を提供している通信キャリアを選定する
- デバイス管理用のMDMとアクセスを制限するセキュアブラウザを備えた運用体制を構築する
- 保護者向けの学校通信をタブレットを利用して配信する

## タブレット導入によって変わる学習スタイル

聖望学園は2016年4月より、セルラーモデルのタブレットを導入し、新中学1年生全44名に対して学校貸与による一人1台体制を開始した。教育現場においてもICTの活用が求められるようになった今、聖望学園中学校においても積極的にICTの取組みを進める方針だ。同校の関純彦校長は「中学生のうちから、学校や家庭などでICTを当たり前のように使えることが重要だと思い環境を整備しました」とセルラータブレット導入の経緯を語る。



### 紙の教材を使わない授業、オンライン配信の学級通信

具体的な活用としては、アクティブ・ラーニングの実践や授業と家庭学習の連携にICTを活かしている。例えば数学の授業では、紙の教材を使わずに、教師が作成したPDFファイルの教材を授業支援ツールで配信する形で進められる。生徒たちはタブレットに回答を直接書き込み、教師はその様子を手元のタブレットで見ながら生徒の理解度を確認する。教室前の黒板には生徒全員の回答を映写したり、特定の生徒の回答を選んで比較して考えるなど、タブレットを使うことで生徒の参加感が高まる授業を実現している。ほかに、学級通信を紙ではなく授業支援ツールを用いてオンラインで配信するなど、新たなコミュニケーションの手段にタブレットを活かし学ぶスタイルを広げている。



他にも、学級通信を紙ではなく授業支援ツールを用いてオンラインで配信するなど、新たなコミュニケーションの手段にタブレットを活かし学ぶスタイルを広げている。

## どんな時でも利用可能な学習環境の実現

### ■ 生徒全員が家庭でタブレットを使った学習ができる

聖望学園中学校では、校内のWi-Fi環境が整備されているにもかかわらず、セラータブレットをあえて選択した。これについて同校のICT導入に携わった永澤教諭は、「当初からタブレットの活用範囲を授業だけでなく、家庭学習でも利用する方向で考えていました。そのため、各家庭の通信環境に依存することなく、生徒全員が家庭でタブレットを使った学習ができるよう、学校として足並みをそろえることを優先しました」と話す。



### ■ 山間部から通う生徒も安心のリモートラーニング

またセラーモデルであれば、災害対策にも有効だと判断した。同校では、秩父の山間部から通う生徒らが、台風や降雪などの影響で交通機関がストップし、休校を余儀なくされることがあるという。そのような場合であっても、タブレットで自宅からアクセスできる環境があれば、宿題を提出したり、映像授業を見るなどして家庭学習でカバーできる。関校長は「どんな時にもでも利用可能なリモートラーニングの



環境を築けることがセラーモデルのメリットです。Wi-Fiモデルでは、その場の通信環境に左右されてしまい、つながらない場合もありますからね」と語る。安定した接続環境のもと、生徒が安心して学習を継続できる環境を実現したといえる。

### ■ 通信の安定性、充実したサポート体制が決め手

安定した通信環境を重要視した聖望学園中学校では、セラーモデルの機種にNTTドコモを選択した。「地域的にもNTTドコモの通信環境が一番安定していました。月額料金などのコスト面についての議論もありましたが、通信の安定性はコストに代えられないと思いました。またNTTドコモはサポート体制が充実していたことも決め手になりました。」(関校長)

同校ではセラータブレットの導入にあたり、中学1年生が使うことにも配慮した。この年齢はITリテラシーが発達段階にあり、個人差も大きいからだ。生徒や教師が安心・安全に使うためには、学校側である程度管理することが望ましいと考え、NTTドコモのMDM「あんしんマネージャー」も導入した。永澤教諭は、「実際に生徒がタブレットを使う様子を見ながら、アプリ配信や削除などを行っています」と話す。また機器の破損・紛失についても、NTTドコモではスムーズな代替端末との取り換えが可能であり、教育活動が止まらないこともメリットだという。



## 新たな可能性により広がっていく豊かな学校生活

セラータブレット導入から約1年が過ぎた聖望中学校。現場ではまだまだ試行錯誤が続いているものの、関校長は「入学式が終わって生徒が初めて座る机にタブレットの箱を置いたが、開けた生徒の目が輝いていたのを思い出す。それから今までとても大切に使っている」と話す。そして永澤教諭はこれまでも振り返って生徒たちが面白くなって使う姿が見られ、「数学が好きになった」というような前向きな発言も聞こえるようになってきました」と手応えを語る。

今後のICT活用について関校長は「授業の枠にとらわれず、もっと活用範囲を広げていきたい」と述べる。具体的には、学校に来てもらうことが難しい外部の講師にリモートで教えてもらったり、ビデオ通話アプリを使って海外の学校とやり取りをしたり、さらには修学旅行や学校行事など、学校や家庭以外の場所でもタブレット端末を積極的に使っていきたいと抱負を話す。安定したリモートラーニングの環境をベースに、豊かな学校生活を描く構想がどんどん広がっている。



永澤勇気 教諭

関純彦 校長

お問い合わせ

株式会社NTTドコモ

ドコモ・コーポレートインフォメーションセンター(☎0120-808-539)  
受付時間 平日午前9時～午後6時(土・日・祝日・年末年始を除く)

ドコモのホームページ 法人のお客さま  
教育の場にICTを!  
[https://www.nttdocomo.co.jp/biz/special/education\\_ict/](https://www.nttdocomo.co.jp/biz/special/education_ict/)



※本チラシの内容は2017年1月取材時点のものです。